

検定会員6人に1人参加

トス流交
ナリ区
ア地区
券海地
証東海
本会協

会員100人突破

日本証券アナリスト協会東海地区交流会の登録者数が、発足から丸6年を迎えて100人を突破した。交流会は、日本証券アナリスト協会が地方で会員を組織化し、会員相互の交流を深めてもらおうと全国各地で始めた。自主勉強会の開催や施設見学会などを行っている。

地区交流会は現在、東海のほかに北海道や東北、北陸、関西、中国、四国、九州の全国各地にある。登録者はそれぞれの地方に住む同協会検定会員が対象。東海地区交流会は、2009年に全国で2



参加者らで意見交換する勉強会

のでは」と推察する。登録者の顔ぶれは金融関係者をはじめ企業の経営者や財務担当者、税理士、大学教授など。2〜3カ月に1回ほどのペースで定期的に自主勉強会などの交流会を開催し、親睦を深めている。

数は約650人で、6・5人に1人が参加している計算となる。東海の参加率が高い背景について、代表を務める鬼澤有治・キザワ・アンド・カンパニー社長は「地元とのつながりを大切にする人が多い。転勤者などで、ネットワークづくりに意欲的な人も多い

番目に発足し、登録者数100人の大台を他地区に先駆けてことし5月に達成した。現在106人が登録している。

東海の証券アナリスト検定会員

12月に、日本証券アナリスト協会の主催で「アベノミクスと東海経済の振り返り」をテーマにしたシンポジウムを実施するほか、東海地区交流会としても来年4月に、初めてのシンポジウムを名古屋で開く目標だ。